

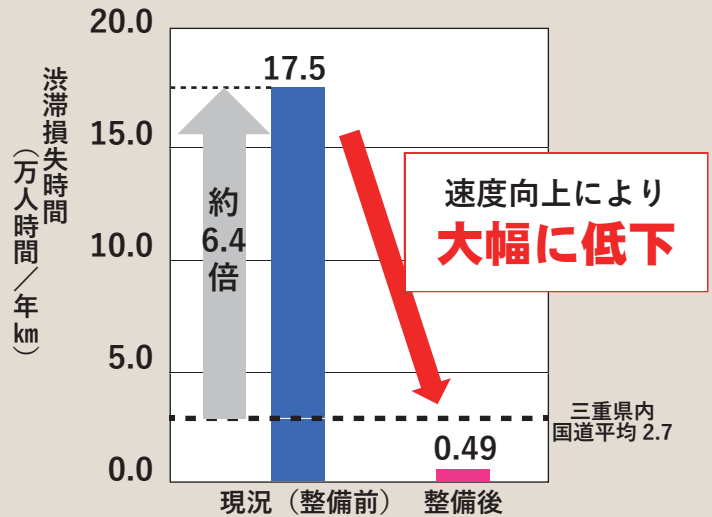
さまざまな整備効果

渋滞の緩和

道路拡幅による4車線化、右折レーンの設置により渋滞が緩和され、交通の流れがスムーズになります。



桑名東部拡幅区間の渋滞損失時間削減効果



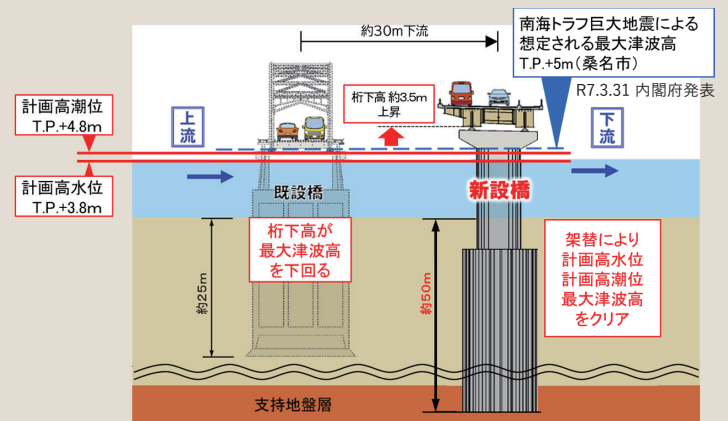
※渋滞損失時間の算定方法

現況：渋滞損失時間 (R1年ETC2.0プローブより)

整備後：交通量推計の整備あり・なしにおける渋滞損失時間の変化率を現況値に乗じて算出
区間：桑名東部拡幅区間 (3.9 km)

丈夫で安全な橋

- 最新の橋梁の基準に基づいて設計することから、耐震性に優れた橋になります。そのため、地震時の避難経路や緊急輸送路の確保をすることができます。
- 十分な道路幅を確保し、車だけでなく自転車や歩行者の安全性にも優れた橋になります。
- 新しい橋は、従来と比べ橋が高く、橋脚も細くなるため、川の流れがスムーズになり、周辺地域の水害の恐れが少なくなります。



今昔の伊勢大橋

昭和初年、国道1号で最大の障害は木曾三川の渡河でありました。当時の交通手段は渡し船だけしかありませんでしたが、自動車の普及や、四日市港を始めとする北勢地方の経済の活発化とともに陸路による名古屋への交通手段を確保する必要性が高まってきました。そこで、愛知県・三重県が、尾張大橋・伊勢大橋の架橋計画を立て、それぞれ昭和8年10月と同9年5月に完成し、東海地方の交通に大きく貢献しています。



現在の伊勢大橋

国道1号(伊勢大橋)は開通以来交通量が大幅に増え、大型車両の通行が年々増加しており、慢性的な交通混雑の問題を抱えています。また、長年にわたり重交通を支えてきたため老朽化も著しく、道路幅員も狭いため早期架替の必要性があります。

